

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成25年9月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400142-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド岡山本校		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル		
訪問調査日	平成25年11月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園内を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。また、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、作業や収穫を楽しんでいただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県北の山郷の自然に囲まれ、法人の事業所が同敷地内に点在し一つの地域となっており、入居者同士が寄り添って生活を送っている。園内には桜、果樹、四季折々の草花が咲き競い、地域の行事と共に入居生活を楽しませている。敷地内には広い畑があり、季節の野菜を植え、収穫して、食材として彩を添え、食への楽しみへと繋がっている。冬場は寒さが厳しい為、いす式の炬燵を置き、今までの生活が続けられる様工夫している。紅葉が里に下りてくる頃、職員は笑顔忘れず、入居者のその人らしくを想いに留め、人生の経験者として敬意をもってケアに努めている事業所でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十字会の方針・理念を玄関掲示板に掲示し、職員に意識づけをしている。	玄関先や各ユニットに掲示して、職員に意識付けている。また認識を持ってプライバシーを確保し、その人らしい生活を確保できる様努め、笑顔を持ってコミュニケーションをとる等、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭やお花見、踊りの慰問等で高校生や小学生とのふれあいや敷地内の利用者同士の交流を図っている。また運営推進委員会の構成員には地域の民生委員の方にもお願いしたりして交流を図っている。	敷地内の別の事業所や小学生・高校生と交流している。また、地域の「落合まちかど展覧会」に出展したり、作品を観に「ふれあい館」に出掛けたり、ボランティアが訪問したりと、地域と繋がりがりながら生活を送っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市内のグループホームで開催している連絡協議会に毎回参加したり、地域の研修等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の取り組みや実際の行事にも一緒に参加していただいたり、取り組み状況を報告しながら、委員からの疑問や意見を聞いている。また外部評価の報告もしている。	民生委員、高齢者支援課、家族、理事長が参加し開催している。花の苗植え・納涼祭・花見会などの活動報告、外部評価の報告、現況報告、防災訓練に関する報告を行い、意見を頂戴し、提案を協議している。	運営推進会議には行政や地域の方が参加し、事業所の運営を理解して頂いている。更に利用者の家族の参加があれば要望を聴く機会となるので、参加が出来るよう工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	真庭市内のグループホームで開催している連絡会議に、毎回担当者に出席していただき、実際の取り組みなど情報交換をしている。	3か月に1回、グループホーム連絡協議会に参加して、市の関係者と情報を交換している。事業所の花見会、納涼会に市職員を招き、市主催の研修会に参加して協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	また事業所内で身体拘束0推進委員会を開き勉強会を定期的に行うこととしている。また束縛のない声掛けを心掛けている。	身体拘束0推進委員会、勉強会を定期的開催し、職員は正しい理解の基にケアに取り組んでいる。その人らしく、利用者本位のケアに努めて、入居者は穏やかに生活を送っている。玄関は施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0推進委員会の中で虐待について事業所内で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	OJT活用し管理者や職員は成年後見制度や日常生活支援にて学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書を提示して利用料等の説明を丁寧に行い疑問点を尋ね説明している。また、改定の際などは利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を聞く機会を設けている。また、意見箱を設置している。また行事や日頃の活動を報告している。	意見箱を設置し、運営推進会議時等に意見や提案を聴く機会としている。「十次会だより」にて日常の活動や行事を報告して、意見や要望が聴き取り易くなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1回、副主任連絡会では法人の運営に関する意見や提案を提出している。また、法人の各種PTや委員会に事業所職員がメンバーとなり参加している。	副主任会議にて法人の運営に関する報告を受け、意見、提案をしている。職員が法人の委員会にメンバーとして出席して意見を伝えている。職員と管理者は日常的に意見を交わしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業規則を設け、就職するときに説明をしている。また、労働安全委員会を開き職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に照らし研修を受ける機会を確保したり、法人内外の研修の情報を提供し、OJTを活用して研修報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市内のグループホーム連絡会を3ヶ月に1回開催し、意見交換や情報交換、研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ早く環境に慣れて頂けるよう努めている、職員、管理者は本人の思いや、不安に耳を傾けながら安心出来るような対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談時に家族が困っている事や不安なことや要望等をお聞きし、要望や不安なことをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し・洗濯たたみ等)や本人の好みの作業を職員も教えていただいたり、出来る事を一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、家族に随時相談しながら対応を相談している。面会時や電話で様子を伝えたり、自由に外出や外泊をして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の方や友人、以前利用されていた同敷地内のサービス事業所の友人が来られた時、ゆっくり会話していただき、また気軽に来ていただける雰囲気作りに努めている。	馴染みの人との関係を大切にし、知人や友人の訪問時にゆっくり会話出来るよう環境を整えている。また、家族と墓参り、自宅への帰省、行きつけの美容院や買い物に出掛けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みのある隣のフロアの利用者の部屋へお話に行ったり、囲碁やオセロをするなどの利用者同士関係を取り持ったり、一人一人が孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	また、入居時には家族に「情報シート」の記入をお願いし、本人の希望を情報収集している。会話の際、さりげなく思いや、生活のこだわりなどを聞き取りをしている。	「情報シート」「人生歴申告書」等により本人の思いや意向を捉えている。コミュニケーションを密に取り、要望を把握しているが、困難な場合は声掛けによる反応や表情より思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅や他の施設のケアマネに情報を頂いたり、家族に「人生歴申告書」の記入を協力いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好みの事や出来ることを把握し、自信の持てる生活ができるように、状態変化に注意し、随時アセスメントを行い、カンファレンス開催し職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と面会時や電話で相談や希望を聞いたりとしている。利用者が出来る事や得意な事など日々聞きとりながら介護計画を作成している。	6か月毎にモニタリングを行い、必要に応じて介護計画を見直している。統一したケア実践の為、介護計画は現場でいつでも閲覧出来るようにしている。本人や家族の要望を基に、解決すべき課題を捉え、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一したケアの実施や介護員日誌を毎日記録して、情報を共有し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できないと決め付けずに個々にあった支援ができるよう取り組めるよう利用者本位の支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高校の吹奏学部に慰問に来ていたたり、踊りや銭太鼓等の慰問が来られた時には見学に行っている。また「まちかど展覧会」にも出品しふれあい館を訪れた方とのふれあいもできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方は、家族の協力で受診されている。また、協力医と連携し緊急時には医師に相談し、指示を仰いでいる。	本人、家族の希望があれば、家族の協力で以前のかかりつけ医と歯科の受診を支援している。週1回、協力医の河本医院から往診があり健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員がいないので、併設の特養の看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。入院時には真庭共通シートで情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療的管理の必要な方は、ご家族に説明し納得いただいている。また重度化した場合の対応などや施設での生活が出来るだけ継続出来るようにしている。	契約時、胃瘻、バルーン施行が必要となれば他の施設へ変更して欲しい旨を説明している。重度化しても、栄養士と相談の上、栄養補助食品の使用を考慮して、できるだけ継続して生活できる様支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるよう救急法について職場内外の研修や施設内のOJTに参加しマニュアルに沿い実践に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回実施している。地元の消防団の協力を得て参加してもらっている。ホーム内では毎月1回防災研修を行っている。	年2回、防災訓練を実施し、地元消防団の指導を受けている。敷地内の法人事業所との協力関係も良く、避難場所の確保、避難通報連絡マニュアルの作成、防災に対する備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時には特にプライバシー保護に配慮し、失禁があっても、本人が傷つかないような声掛けを行い、自尊心を傷つけないようにしている。	本人の希望を優先し、自己決定が出来る様に声掛けの工夫をしている。自分のペースを崩すことなく、その人らしい生活が出来るよう心掛けている。入浴時や排泄時にプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎回、好みの洋服や趣味活動等、本人の希望を聞いて自己決定ができるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の戸外への散歩や、ソファに座って外を眺められたり一人一人のペースに合わせて生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服や以前から好きだった色の服や気に入ったものが着られるように衣類の整理を一緒にする。またお化粧が出来る様セッティングしたり月2回の施設内での散髪やご家族と行きつけの美容院に行かれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理を作っている。調理や盛り付けなどそれぞれに得意な分野を受け持ち、食事の楽しみを持って頂けるようにしている。	歳時記に沿って献立を作り、季節を感じながら美味しく食べられる様支援している。菜園に季節の野菜を植え、収穫して、食材として使い、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立を基に調理している。水分が取りにくい方にはレモン水や、お茶ゼリーをつくるなど水分量の確保が出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。入れ歯の方にはポリデント使用し清潔を保っている。義歯の不具合など早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。紙パンツやパットを最低限利用し布パンツでの対応も考えている。	トイレの表示を大きくして、自立を促す支援をしている。トイレでの支援を基本とし、座位が可能であれば排泄表を基に随時誘導をしている。紙パンツ、パットに頼らない排泄支援を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、排泄リズムを把握し水分補給や運動により便秘予防している。また夜間の水分補給にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否があれば拒否の原因を考え、声のかけ方を変えるなど対応を検討する。	週2～3回、午後入浴日となっている。冬場には足浴を併用して、気持ちよく入浴できる様支援している。季節になれば菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を把握し、散歩や家事全般を職員と共に行い夜よく休めるようにしている。眠れないときはフロアで話をきいたり安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で専用のケースを個人別に分け確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅への帰省や、墓参り、買い物等ご家族に協力してもらっている。また戸外への散歩や近くの商店への買い物など支援に努めている。	外気浴を兼ねて敷地内を散歩したり、「落合まちかど展覧会」に見学に行けるよう支援している。敷地内の畑に季節の苗(ナス、トマト、さつまいも、ネギ等)を植え、収穫を楽しんでいる。家族とおやつ等の買い物に出かけている。	入居者の希望で散歩に出て気分転換を図っているが、普段には行けないような馴染みの場所等、家族の協力を得てドライブを兼ねての外出支援も期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じたハガキをご家族に送ったり、頂いたり希望があればご家族に電話する機会をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節の花を活けたり季節感が出るような居間の飾り付けを、利用者と職員が一緒に行っている。窓から見える景色は季節の変わりを感じる事ができる。	居間の窓からは季節の移り変わりが感じ取れ、普通に生活が送れる工夫をしている。気持ちよく過ごせる様に、性格等を考慮に入れて配席に気を配ったり、季節の花を活けたり、作品を壁に貼る等して居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ趣味の隣フロアの方との交流や、テレビを一緒に観たり雑誌や新聞を読んだり思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋とわかり、安心して過ごして頂けるよう居室に使い慣れた家具(たんす・椅子)や仏壇、家族の写真飾り、居心地のよい部屋づくりをしている。	家族の写真、筆筒や椅子、仏壇を自分の好みで配置して、部屋作りをしている。安全を考慮に入れ、床には余分な物を置かず、居心地良く過ごせる様配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子には自分の座布団をしき自分の席と分かるようにしたり「洗面所」や「トイレ」にはわかりやすく表示をしている。また移動スペースには障害物をなくし安全に移動して頂けるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	平成25年9月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400142-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド岡山本校		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル		
訪問調査日	平成25年11月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園内を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。また、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、作業や収穫を楽しんでいただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十字会の方針・理念を玄関掲示板に掲示し、職員に意識づけをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭やお花見、踊りの慰問等で高校生や小学生とのふれあいや敷地内の利用者同士の交流を図っている。また運営推進委員会の構成員には地域の民生委員の方にもお願いしたりして交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市内のグループホームで開催している連絡協議会に毎回参加したり、地域の研修等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の取り組みや実際の行事にも一緒に参加していただいたり、取り組み状況を報告しながら、委員からの疑問や意見を聞いている。また外部評価の報告もしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	真庭市内のグループホームで開催している連絡会議に、毎回担当者に出席していただき、実際の取り組みなど情報交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	また事業所内で身体拘束推進委員会を開き勉強会を定期的に行うこととしている。また束縛のない声掛けを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束推進委員会の中で虐待について事業所内で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	OJT活用し管理者や職員は成年後見制度や日常生活支援にて学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書を提示して利用料等の説明を丁寧に行い疑問点を尋ね説明している。また、改定の際などは利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を聞く機会を設けている。また、意見箱を設置している。また行事や日頃の活動を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1回、副主任連絡会では法人の運営に関する意見や提案を提出している。また、法人の各種PTや委員会に事業所職員がメンバーとなり参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業規則を設け、就職するときに説明をしている。また、労働安全委員会を開き職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に照らし研修を受ける機会を確保したり、法人内外の研修の情報を提供し、OJTを活用して研修報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市内のグループホーム連絡会を3ヶ月に1回開催し、意見交換や情報交換、研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ早く環境に慣れて頂けるよう努めている、職員、管理者は本人の思いや、不安に耳を傾けながら安心出来るような対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談時に家族が困っている事や不安なことや要望等をお聞きし、要望や不安なことをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し・洗濯たたみ等)や本人の好みの作業を職員も教えていただいたり、出来る事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、家族に随時相談しながら対応を相談している。面会時や電話で様子を伝えたり、自由に外出や外泊をして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近所の方や友人、以前利用されていた同敷地内のサービス事業所の友人が来られた時、ゆっくり会話していただき、また気軽に来ていただける雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みのある隣のフロアの利用者の部屋へお話に行ったり、囲碁やオセロをするなどの利用者同士関係を取り持ったり、一人一人が孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	また、入居時には家族に「情報シート」の記入をお願いし、本人の希望を情報収集している。会話の際、さりげなく思いや、生活のこだわりなどを聞き取りをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅や他の施設のケアマネに情報を頂いたり、家族に「人生歴申告書」の記入を協力いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好みの事や出来ることを把握し、自信の持てる生活ができるように、状態変化に注意し、随時アセスメントを行い、カンファレンス開催し職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と面会時や電話で相談や希望を聞いたりしている。利用者が出来る事や得意な事など日々聞きとりながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一したケアの実施や介護員日誌を毎日記録して、情報を共有し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できないと決め付けずに個々にあった支援ができるよう取り組めるよう利用者本位の支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高校の吹奏学部に慰問に来ていたいたり、踊りや銭太鼓等の慰問が来られた時には見学に行っている。また「まちかど展覧会」にも出品しふれあい館を訪れた方とのふれあいもできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方は、家族の協力で受診されている。また、協力医と連携し緊急時には医師に相談し、指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員がいないので、併設の特養の看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。入院時には真庭共通シートで情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療的管理の必要な方は、ご家族に説明し納得いただいている。また重度化した場合の対応などや施設での生活が出来るだけ継続出来るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるよう救急法について職場内外の研修や施設内のOJTに参加しマニュアルに沿い実践に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回実施している。地元の消防団の協力を得て参加してもらっている。ホーム内では毎月1回防災研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時には特にプライバシー保護に配慮し、失禁があっても、本人が傷つかないように声掛けを行い、自尊心を傷つけないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎回、好みの洋服や趣味活動等、本人の希望を聞いて自己決定ができるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の戸外への散歩や、ソファに座って外を眺められたり一人一人のペースに合わせて生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服や以前から好きだった色の服や気に入ったものが着られるように衣類の整理を一緒にする。またお化粧が出来る様セッティングしたり月2回の施設内での散髪やご家族と行きつけの美容院に行かれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理を作っている。調理や盛り付けなどそれぞれに得意な分野を受け持ち、食事の楽しみを持って頂けるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立を基に調理している。水分が取りにくい方にはレモン水や、お茶ゼリーをつくるなど水分量の確保が出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。入れ歯の方にはポリデント使用し清潔を保っている。義歯の不具合など早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。紙パンツやパットを最低限利用し布パンツでの対応も考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、排泄リズムを把握し水分補給や運動により便秘予防している。また夜間の水分補給にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否があれば拒否の原因を考え、声のかけ方を変えるなど対応を検討する。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を把握し、散歩や家事全般を職員と共に行い夜よく休めるようにしている。眠れないときはフロアで話をきいたり安心出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で専用のケースを個人別に分け確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などはその後の状態変化に注意し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅への帰省や、墓参り、買い物等ご家族に協力してもらっている。また戸外への散歩や近くの商店への買い物など支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に応じたハガキをご家族に送ったり、頂いたり希望があればご家族に電話する機会をつくっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節の花を活けたり季節感が出るような居間の飾り付けを、利用者と職員が一緒に行っている。窓から見える景色は季節の変わりを感じる事ができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ趣味の隣フロアの方との交流や、テレビを一緒に観たり雑誌や新聞を読んだり思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋とわかり、安心して過ごして頂けるよう居室に使い慣れた家具(たんす・椅子)や仏壇、家族の写真を飾り、居心地のよい部屋づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子には自分の座布団をしき自分の席と分かるようにしたり「洗面所」や「トイレ」にはわかりやすく表示をしている。また移動スペースには障害物をなくし安全に移動して頂けるようにしている。		